



A H J I K A N   R E P O R T

第51期 報告書

2014年4月1日 → 2015年3月31日



# Business Report 第51期のご報告

株主のみなさまへ

## 増収増益の決算をご報告申しあげます

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。当社グループの第51期(2014年4月1日から2015年3月31日まで)の連結会計年度が終了いたしましたので、ここに営業の状況および決算などについてご報告申しあげます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府・日本銀行の経済・金融政策により円安・株高が進み、緩やかながら景況感に回復の兆しが見られるようになりましたが、一方で為替の影響による輸入品や原材料価格の上昇などもあり、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましても、景気回復に伴う個人消費マインドの持ち直しなど、一部において明るい兆しが見られるようになったものの、円安の影響を受け、輸入品や原材料価格が大幅に上昇するなど、以前にも増して厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは第9次中期経営計画の最終年度をスタートさせ、変化の激しい時代に対応するため、第一に「商品の研究開発と技術開発の強化」、第二に「営業基盤の拡充と市場開拓」、第三に「利益構造の改善」、第四に「全社供給体制の強化と効率化」、第五に「経営効率・経営品質の向上」を重点施策とした取り組みを展開してまいりました。

その結果、スーパーマーケットやコンビニエンスストアを中心として、主に厚焼玉子類、蒲鉾類、味付かんぴょう・しいたけ類などの当社主力製品の需要が拡大し、売上高全体では、前連結会計年度に比べ4.4%増加の37,269百万円となりました。

売上原価につきましては、生産稼働率の維持・向上や製造工程の効率化、省エネ活動、ロス低減活動などに取り組んだ結果、製造原価率を引き下げることができましたが、主要原材料価格の高騰や副材料・補助材料費上昇に加え、急速な円安に



株式会社 あじか<sup>ん</sup> <sup>なかに</sup> <sup>のぼる</sup>  
代表取締役社長 中谷 登

より外貨建て輸入品などの仕入コストが大きく上昇したことや、中国のグループ会社において、原材料費や人件費を中心に諸コストが上昇したことなどの影響もあり、前連結会計年度に比べ4.4%増加の28,916百万円となりました。

販売費及び一般管理費につきましては、全社的に抑制する方針で進めてまいりましたが、売上高の拡大に伴う物流費や販売促進に係る費用の増加、次期成長拡大につながる戦略的な経費などにより、前連結会計年度に比べ3.9%増加の8,194百万円となりました。

これらの結果、営業利益は、前連結会計年度に比べ42.5%増加し、158百万円となりました。また、営業外損益面での為替予約の決済差益や時価評価益などの影響もあり、経常利益は同96.8%増加の530百万円となりました。これから法人税等を差し引いた当期純利益は、同215.4%増加の250百万円となりました。

当社は引き続き、食品メーカーとしての社会的責任を全うし、目標の確実な実現に向けて全社をあげて取り組む所存でありますので、株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

2015年6月

代表取締役社長 中谷 登

## Q & A

### Q 主要原材料の市況変動リスクは？

**A** 当社グループが生産する製品は、鶏卵、かんぴょう、しいたけ、ごぼう、魚肉すり身を主原料としており、契約購買や分散調達により安定した数量の確保と特定の調達先への集中の回避を図っております。

しかし、これらの原料の調達価格や調達量は、作況や自然災害、大規模事故等による産地や生産者への影響、相場の変動、漁獲量制限、調達先の経済状況などによって影響を受ける可能性があります。

また、調味料、食用油といった副原料や包装資材などの原材料全般にわたって、需要と供給の動向や原油・穀物価格、為替などにより調達価格が変動し、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

### Q 為替相場の変動による影響は？

**A** 当社の取扱品には海外からの輸入品が含まれており、為替相場の変動によるリスクをヘッジする目的で、為替予約による対策を講じております。しかしながら、リスクヘッジにより為替相場変動の影響を緩和することは可能であっても、影響をすべて排除することは不可能であり、当社の経営成績および財政状態に影響を与える可能性があります。

### Q 食品の安全性に対する取り組みは？

**A** 近年、食品業界におきましては、野菜の残留農薬問題、BSE問題、鳥インフルエンザ問題、無認可添加物の使用問題、ノロウイルス、中国品の農薬混入事件、産地の偽装表示などの諸問題が発生しております。

当社グループでは、製造工程に導入しております高度な品質保証システム(ISO9001)や衛生管理システム(HACCP)をさらに強化する意味から、食品安全マネジメントシステム(ISO22000)の構築を終え、フードディフェンス面でのさらなる強化に取り組むとともに、トレーサビリティの体制を強化し、原材料について起原料まで溯って、追査できる仕組みを構築するなど、品質管理については万全な体制で臨んでおります。

しかしながら、今後も当社グループ固有の品質問題のみならず、社会全般にわたる一般的な食品の安全性や品質に係る問題が発生した場合、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

### Q 利益配分に関する考え方は？

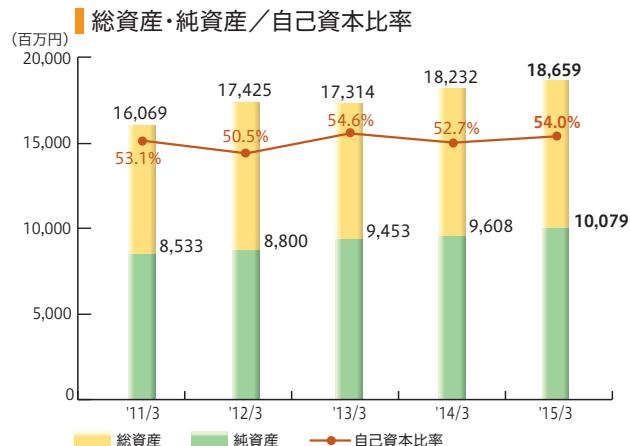
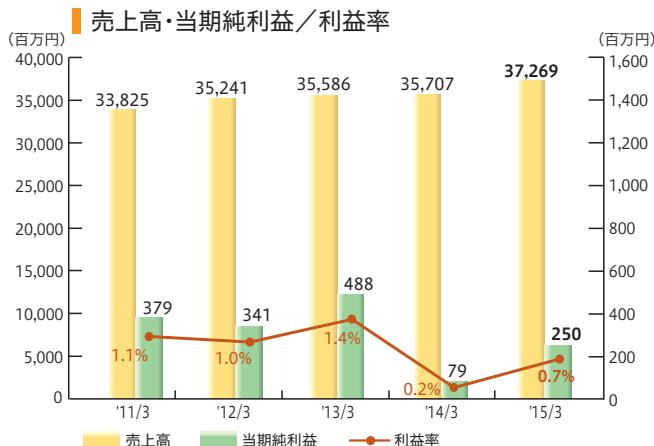
**A** 当社では、株主のみならず適切な利益還元を行うことを経営の重要課題と位置付けており、安定的な利益を確保し、事業規模の拡大と収益性向上の原資となる内部留保の充実に努めるとともに、配当につきましては、安定的かつ継続的に行う前提で、配当性向や配当利回りなどを指標とし、経営成績を勘案した成果配分とすることを基本方針としております。

当期の期末配当金につきましては、経営成績に鑑み、1株当たり12円とさせていただきます。

内部留保資金につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応すべく、今まで以上にコスト競争力を高め、市場ニーズに応える技術・製造開発体制を強化し、さらには事業拡大戦略のために有効投資を行ってまいりたいと考えております。

# あじかん @ a glance

## 業績の推移(連結)



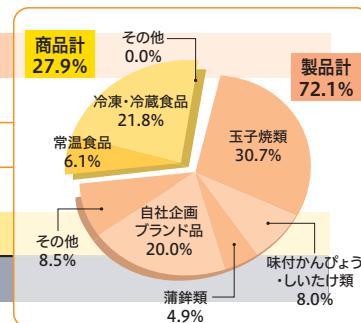
## 製商品別売上高

「あじかんグループ」は、鶏卵加工製品・野菜加工製品・水産練製品・その他食品の製造、販売、および卸売、農産物の生産、販売を主な事業としております。

(単位:百万円)

区分	'14/3	構成比	'15/3	構成比	前連結会計年度比
玉子焼類	10,299	28.9%	11,458	30.7%	111.3%
味付かんぴょう・しいたけ類	2,965	8.3%	2,980	8.0%	100.5%
蒲鉾類	1,652	4.6%	1,818	4.9%	110.0%
自社企画ブランド品	7,993	22.4%	7,433	20.0%	93.0%
その他	2,757	7.7%	3,173	8.5%	115.1%
<b>製品計</b>	<b>25,667</b>	<b>71.9%</b>	<b>26,863</b>	<b>72.1%</b>	<b>104.7%</b>
常温食品	2,334	6.5%	2,267	6.1%	97.1%
冷凍・冷蔵食品	7,687	21.5%	8,117	21.8%	105.6%
その他	18	0.1%	20	0.0%	110.9%
<b>商品計</b>	<b>10,039</b>	<b>28.1%</b>	<b>10,405</b>	<b>27.9%</b>	<b>103.6%</b>
<b>合計</b>	<b>35,707</b>	<b>100.0%</b>	<b>37,269</b>	<b>100.0%</b>	<b>104.4%</b>

注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。



# チルド物流を根幹においた あじかんネットワーク

国内に協力工場を含め5つある工場で、徹底した品質管理のもとに生産された製品は、全国へ張り巡らされたチルド主体の物流網を通じて、全国35営業所から直接、お客さまにお届けいたしております。

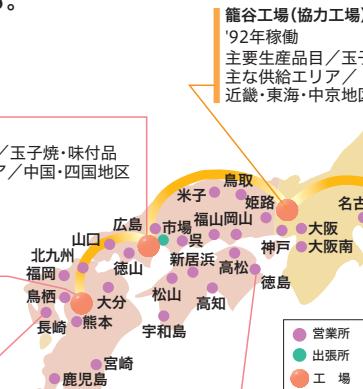


**本社・広島工場**  
'78年稼働  
主要生産品目／玉子焼・味付品  
主な供給エリア／中国・四国地区

## 鳥栖工場

'82年稼働  
主要生産品目／  
玉子焼・かに風味蒲鉾・おぼろ  
主な供給エリア／九州地区

## 長崎営業所

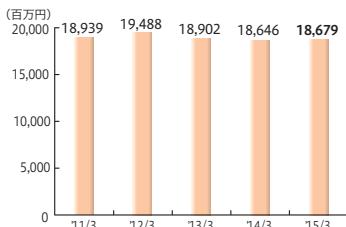


## 徳島営業所



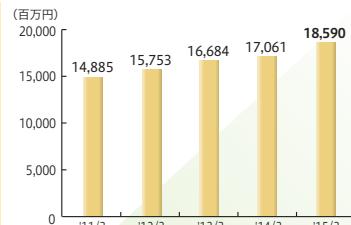
## ■ 西日本エリア売上高(連結)

中食市場への深耕開拓や沖縄地区での新規開拓を進める一方で、各種イベントに合わせた販売活動などを行ってまいりましたが、販売・価格競争の影響などにより、売上高は18,679百万円(前連結会計年度比0.2%増加)にとどまりました。



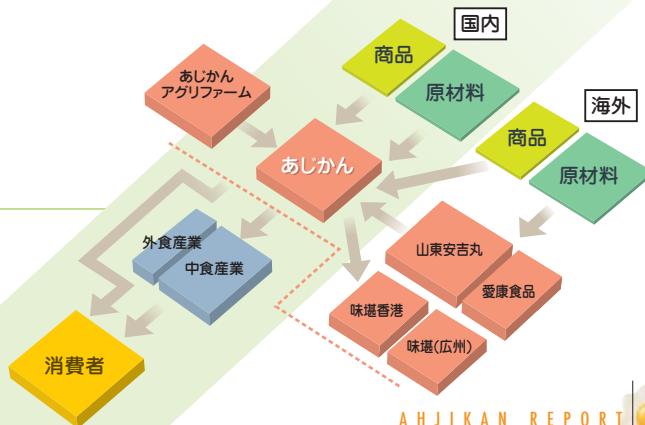
## ■ 東日本エリア売上高(連結)

新製品やリニューアル品を軸にスーパーマーケットやコンビニエンスストアに向けての取り組みを強化するとともに、平成25年5月に開設いたしました札幌駐在所(現札幌出張所)などでの新規開拓が進み、売上高は18,590百万円(前連結会計年度比9.0%増加)となりました。



## あじかんの流通経路

当社は業務用食品のほか、一部市販用の食品を取り扱っております。当社では原材料を加工し、製品化して販売するとともに、商品を仕入れての販売も行っております。また、海外においても関係会社からの「海外生産品」や海外委託工場で生産する「海外調達品」も仕入れております。近年は、中国をはじめ、東南アジア諸国や、北米、豪州市場への販売強化にも取り組んでいます。



# History あじかんのあゆみ

当社の歴史は、現 取締役会長 足利政春が、  
1962年に広島市で個人創業したことから始まります。  
以来50年、地歩を固めながら確実に成長してまいりました。



つくば山崎農園産  
あじかん焙煎ごぼう茶

売上高  
(百万円)

2015

35,000



愛康食品(青島)有限公司

ISO22000を取得 [1月]

中国に「味堪(広州)餐飲管理有限公司」を設立 [5月]

ごぼう茶の製造方法に関する特許を取得 [12月]

2014

香港に「味堪香港有限公司」を設立 [9月] 2013

(株)あじかんアグリファームを設立 [4月]

1単元の株式数の変更(500株→100株)、創業50周年 [10月]

2012

「つくば山崎農園産あじかん焙煎ごぼう茶」発売 [12月] 2010

「東京営業所」を建て替え [5月] 2008

中国に合併会社「愛康食品(青島)有限公司」を設立 [5月] 2005

ISO14001認証取得 [12月] 2003

中国に「山東安吉丸食品有限公司」を設立 [2月] 2002

ISO9001認証取得 [2月] 2001

東証2部上場(広証廃止による移行上場) [3月]

1単元の株式数の変更(1,000株→500株) [8月]

2000

静岡工場開設 [4月] 1998

1996 [12月] 大証2部上場

1990 [12月] 広島証券取引所へ株式上場(6日)  
[12月] 資本金を1,102百万円に増資

1984 [8月] 「厚焼玉子の製造方法」特許登録(初の登録特許)

1978

[3月] 商号を株式会社あじかんに変更  
[6月] 本社・広島工場を、広島市西区商工センター(現地)へ新築移転

1970 [1月] 商号を株式会社広島製玉に変更

1965 [3月] 資本金1百万円にて株式会社三栄製玉設立

1962 [10月] 広島市南区西蟹屋にて、現 取締役会長 足利政春が三栄製玉として個人創業



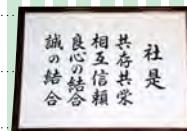
静岡工場



広島製玉時代の  
本社工場



山東安吉丸食品有限公司



創業当時の作業風景

0

'62'63'64'65'66'67'68'69'70'71'72'73'74'75'76'77'78'79'80'81'82'83'84'85'86'87'88'89'90'91'92'93'94'95'96'97'98'99'00'01'02'03'04'05'06'07'08'09'10'11'12'13'14'15

# 2014-2015 Topics

## 広報・IR

### ■ 中国広東省広州市に孫会社を設立しました

当社は、2014年5月5日付で、広東省広州市に「味堪(広州)餐飲管理有限公司」を設立しました。同社はあじかんの100%出資子会社「味堪香港有限公司」が100%出資しております。

同社は、健康と、日本の食文化を中国の消費者に提供し、中国でのあじかんブランドを確立することを目的とした活動を展開してまいります。

具体的にはイベント企画業務として、OL、主婦、あるいは食品業界に携わる人たちを対象に定期的に「巻寿司教室」「親子寿司教室」などを開催しています。また、今後はアンテナショップ業務として、現地でのあじかんの食材を最大限に生かしたテイクアウト巻寿司の専門店の運営なども予定しています。

現地の嗜好に合わせたメニュー開発を行い、中国および東南アジア諸国への販路拡大につながるよう、取り組んでまいります。

#### 【会社概要】

所在地：中国広東省広州市越秀区建設六馬路青菜崗街48号503室  
資本金：4,500千人民元  
事業内容：・飲食管理に関するコンサルティング業務  
・飲食プロジェクトの企画  
・和風ファスト・フードの加工と販売  
・酒類と食品の輸出入、卸売および小売



### ■ ごぼう茶の製造方法に関する特許を取得しました

当社は、2014年12月12日付で、ごぼう茶の製造方法に関する特許を取得しました。

ごぼう茶は、当社が発売した2010年12月以降、急速に市場が拡大し、現在では、杜仲茶やハトムギ茶などならんで健康茶の定番商品として認知されてきております。本特許には、ごぼうをおいしく加工する条件が詰まっており、細胞を極力破壊せず加工することにより、おいしさの高い抗酸化活性を両立させました。

本特許の取得により、今後さらに利用用途を拡大させていく所存です。

#### 【特許名称】

ごぼう茶葉、これを用いたごぼう茶葉抽出液およびごぼう茶葉含有食品、ならびにごぼう茶葉製造方法

#### 【特許概要】

本特許は、表皮を含む生のごぼうを加熱後、カットして乾燥するごぼう茶葉の製造方法であり、この製法によって甘味成分であるフルクトース<sup>(※1)</sup>を増加させ、「あじかん焙煎ごぼう茶」の特徴でもある「甘味」や「こく味」を付与することができます。また、加熱処理を行うことで、ポリフェノールの酸化を抑え、より多くの有効成分を残すことが可能となり、高い抗酸化能を実現しています。

(※1)フルクトース(果糖)果物に多く含まれており、天然の糖の中で最も甘い。ごぼうの食物繊維であるイヌリンは、主にフルクトースからできており、分解することで「甘味」や「こく味」を付与することができる。

# 決算のご報告 [連結]

## COMMENT

◆連結子会社の数

4社

新規	1社
除外	0社

◆持分法適用関連会社の数

1社

新規	0社
除外	0社

## 企業集団の状況



# 貸借対照表(連結)

(単位:百万円)

科目	前連結 会計年度	当連結 会計年度
	2014年3月31日現在	2015年3月31日現在
<b>流動資産</b>	<b>9,434</b>	<b>9,748</b>
現金及び預金	1,468	1,326
受取手形及び売掛金	4,193	4,439
商品及び製品	2,226	2,291
仕掛品	5	6
原材料及び貯蔵品	932	1,024
前渡金	8	62
前払費用	96	84
繰延税金資産	130	137
その他	441	451
貸倒引当金	▲70	▲73
<b>固定資産</b>	<b>8,797</b>	<b>8,910</b>
有形固定資産	6,803	6,763
建物及び構築物	1,948	1,884
機械装置及び運搬具	1,162	1,219
工具、器具及び備品	230	208
土地	3,371	3,371
リース資産	60	71
建設仮勘定	30	9
無形固定資産	185	165
ソフトウェア	106	84
リース資産	45	45
その他	33	35
投資その他の資産	1,809	1,981
投資有価証券	793	955
長期前払費用	3	3
繰延税金資産	7	—
その他	1,186	1,189
貸倒引当金	▲182	▲166
<b>資産合計</b>	<b>18,232</b>	<b>18,659</b>

### ポイント① 総資産

総資産は、前連結会計年度末に比べ427百万円増加の18,659百万円となりました。主な増加要因は、受取手形及び売掛金、商品及び製品、原材料及び貯蔵品の増加や、生産設備の増強投資、メンテナンス投資の増加に加え、投資有価証券の時価評価による残高の増加によるものです。

(単位:百万円)

科目	前連結 会計年度	当連結 会計年度
	2014年3月31日現在	2015年3月31日現在
<b>流動負債</b>	<b>7,413</b>	<b>7,095</b>
支払手形及び買掛金	2,622	2,525
短期借入金	3,195	2,744
リース債務	54	58
未払金	895	510
未払法人税等	14	252
未払費用	308	340
賞与引当金	229	232
役員賞与引当金	—	25
その他	92	407
<b>固定負債</b>	<b>1,210</b>	<b>1,484</b>
長期借入金	574	815
リース債務	95	94
役員退職慰労引当金	350	370
退職給付に係る負債	141	111
資産除去債務	47	48
繰延税金負債	—	43
その他	1	1
<b>負債合計</b>	<b>8,623</b>	<b>8,580</b>
<b>株主資本</b>	<b>9,263</b>	<b>9,435</b>
資本金	1,102	1,102
資本剰余金	1,098	1,098
利益剰余金	7,126	7,298
自己株式	▲64	▲64
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>345</b>	<b>643</b>
その他有価証券評価差額金	192	309
繰延ヘッジ損益	1	0
為替換算調整勘定	260	428
退職給付に係る調整累計額	▲109	▲94
<b>純資産合計</b>	<b>9,608</b>	<b>10,079</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>18,232</b>	<b>18,659</b>

### ポイント② 純資産

純資産は、剰余金の配当による減少要因もありましたが、当期純利益の計上や為替換算調整勘定などの増加要因により、前連結会計年度末に比べ470百万円増加し、10,079百万円となりました。この結果、自己資本比率は54.0%となりました。

## 損益計算書(連結)

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度	当連結会計年度
	2013年4月1日～ 2014年3月31日	2014年4月1日～ 2015年3月31日
売上高	35,707	37,269
売上原価	27,709	28,916
売上総利益	7,998	8,352
販売費及び一般管理費	7,887	8,194
営業利益	110	158
営業外収益	198	455
営業外費用	40	82
経常利益	269	530
特別利益	—	—
特別損失	13	8
税金等調整前当期純利益	256	522
法人税等	176	272
少数株主損益調整前当期純利益	79	250
当期純利益	79	250

### ポイント5 販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費につきましては、全社的に抑制する方針で進めてまいりましたが、売上高の拡大に伴う物流費や販売促進に係る費用の増加、次期成長拡大につながる戦略的な経費などにより、前連結会計年度に比べ3.9%増加の8,194百万円となりました。

## キャッシュ・フロー計算書(連結)

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度	当連結会計年度
	2013年4月1日～ 2014年3月31日	2014年4月1日～ 2015年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	411	1,064
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,030	▲818
財務活動によるキャッシュ・フロー	819	▲399
現金及び現金同等物の増減額	213	▲142
現金及び現金同等物の期首残高	1,245	1,458
現金及び現金同等物の期末残高	1,458	1,316

### ポイント3 売上高

競合他社との激しい価格競争などもありましたが、日本国内での販売強化や新規市場開拓、海外市場への販路拡大などを積極的に行った結果、スーパーマーケットやコンビニエンスストアを中心として、主に厚焼玉子類、蒲鉾類、味付かんぴょう・しいたけ類などの当社主力製品の需要が拡大し、売上高全体では、前連結会計年度に比べ4.4%増加の37,269百万円となりました。

### ポイント4 売上原価

製造原価の抑制に向けた取り組みを行い、一定の成果は得られたものの、主要原材料価格の高騰や副材料・補助材料費の上昇、急激な円安の進行による外貨建て輸入品の仕入原価の上昇を吸収するまでには至らず、前連結会計年度に比べ4.4%増加の28,916百万円となりました。

## 株主資本等変動計算書(連結)

当連結会計年度(2014年4月1日～2015年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額						純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他の有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	1,102	1,098	7,126	▲64	9,263	192	1	260	▲109	345	9,608	
会計方針の変更による累積的影響額	—	—	13	—	13	—	—	—	—	—	13	
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,102	1,098	7,139	▲64	9,276	192	1	260	▲109	345	9,621	
当期変動額	—	—	▲91	—	▲91	—	—	—	—	—	▲91	
剰余金の配当	—	—	250	—	250	—	—	—	—	—	250	
当期純利益	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
自己株式の取得	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	—	—	—	—	—	116	▲1	168	14	298	298	
当期変動額合計	—	—	158	—	158	116	▲1	168	14	298	457	
当期末残高	1,102	1,098	7,298	▲64	9,435	309	0	428	▲94	643	10,079	

注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 決算のご報告【個別】

### 目標とする経営指標

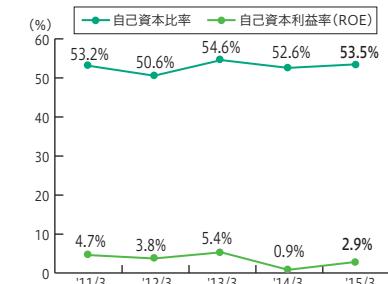
当社は、主な経営指標として売上高、経常利益率、自己資本比率、および自己資本当期利益率を用いております。これら各指標のさらなる向上を目指し、安定配当を継続して行うことができる企業体質の維持・向上に努めてまいります。

2021年3月期を着地点とします長期ビジョン“あじかんV20”においては、売上高の目標を年商500億円、経常利益率の目標を4%以上としております。

### ■売上高・経常利益率の推移(個別)



### ■自己資本比率・ROEの推移(個別)



## ■貸借対照表(個別)

(単位:百万円)

科目	前事業年度	当事業年度
	2014年3月31日現在	2015年3月31日現在
<b>流動資産</b>	<b>8,939</b>	<b>9,110</b>
現金及び預金	1,374	1,169
受取手形及び売掛金	4,219	4,533
たな卸資産	2,699	2,741
前払費用	91	78
繰延税金資産	135	142
その他	490	519
貸倒引当金	▲71	▲74
<b>固定資産</b>	<b>8,815</b>	<b>8,933</b>
有形固定資産	6,243	6,116
建物及び構築物	1,670	1,558
機械、装置及び運搬具	922	915
工具、器具及び備品	219	193
土地	3,371	3,371
リース資産(純額)	60	71
無形固定資産	151	129
ソフトウェア	106	84
リース資産	45	45
投資その他の資産	2,420	2,687
投資有価証券	793	955
関係会社株式	30	30
出資金	52	52
関係会社出資金	947	1,030
破産更生債権等	179	163
長期前払費用	1	0
保険積立金	226	251
出資預け金	62	62
敷金	206	199
前払年金費用	26	27
その他	76	79
貸倒引当金	▲182	▲166
<b>資産合計</b>	<b>17,754</b>	<b>18,044</b>

(単位:百万円)

科目	前事業年度	当事業年度
	2014年3月31日現在	2015年3月31日現在
<b>流動負債</b>	<b>7,294</b>	<b>6,980</b>
支払手形及び買掛金	2,570	2,470
短期借入金	3,195	2,744
リース債務	54	58
未払金	894	508
未払費用	275	305
未払法人税等	—	246
未払消費税等	—	271
預り金	19	36
賞与引当金	229	232
役員賞与引当金	—	25
その他	56	80
<b>固定負債</b>	<b>1,120</b>	<b>1,417</b>
長期借入金	574	815
リース債務	95	94
繰延税金負債	51	87
役員退職慰労引当金	350	370
資産除去債務	47	48
その他	1	1
<b>負債合計</b>	<b>8,415</b>	<b>8,397</b>
<b>株主資本</b>	<b>9,145</b>	<b>9,338</b>
資本金	1,102	1,102
資本剰余金	1,098	1,098
利益剰余金	7,008	7,201
自己株式	▲64	▲64
<b>評価・換算差額等</b>	<b>193</b>	<b>309</b>
その他有価証券評価差額金	192	309
繰延ヘッジ損益	1	0
<b>純資産合計</b>	<b>9,338</b>	<b>9,647</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>17,754</b>	<b>18,044</b>

## ■ 損益計算書(個別)

(単位:百万円)

科 目	前事業年度	当事業年度
	2013年4月1日～ 2014年3月31日	2014年4月1日～ 2015年3月31日
売上高	35,659	37,129
売上原価	27,923	28,992
売上総利益	7,735	8,136
販売費及び一般管理費	7,705	8,015
営業利益	30	120
営業外収益	248	455
営業外費用	35	37
経常利益	244	537
特別利益	—	—
特別損失	9	6
税引前当期純利益	234	531
法人税等	150	260
当期純利益	84	270

## ■ 売上原価の推移(個別)



## ■ 株主資本等変動計算書(個別)

当事業年度(2014年4月1日～2015年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本								評価・換算差額等				純資産合計	
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計	其他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計		
		資本準備金	資本剰余金合計		固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金							利益剰余金合計
当期首残高	1,102	1,098	1,098	200	—	6,589	218	7,008	▲ 64	9,145	192	1	193	9,338
会計方針の変更による累積的影響額							13	13		13				13
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,102	1,098	1,098	200	—	6,589	231	7,021	▲ 64	9,158	192	1	193	9,352
当期変動額														
固定資産圧縮積立金の取崩								—		—				—
別途積立金の積立								—		—				—
剰余金の配当							▲ 91	▲ 91		▲ 91				▲ 91
当期純利益							270	270		270				270
自己株式の取得										—				—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)											116	▲ 1	115	115
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	179	179	—	179	116	▲ 1	115	295
当期末残高	1,102	1,098	1,098	200	—	6,589	411	7,201	▲ 64	9,338	309	0	309	9,647

注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

# Outlook 次期の見通し

## ■ 市場環境の見通し

食品業界における次期の見通しにつきましては、消費者の低価格志向は依然として強く、加えて、先送りになったとはいえ消費税率引き上げの影響も懸念されることから、デフレ環境からの脱却までには当分至らないものと予想されます。

一方で、円安の進行に伴う仕入原価の上昇、原材料価格の高止まり、中国国内での生産コストの上昇、企業間競争の激化など当社グループを取り巻く環境は、引き続き、厳しい状況で推移するものと予想されます。

## ■ 販売面の見通し

当社グループは、2021年3月期を着地点とする長期ビジョン“あじかんV20”を策定し、その実現に向けて、第9次中期経営計画を遂行してまいりました。その総括、ならびに、内外環境変化の見通しを踏まえ、第10次中期経営計画を策定し、次期よりスタートさせてまいります。

国内市場における「継続的需要創造」、中国事業、および海外販売事業の拡大による「グローバル事業の展開」、独創的な商品開発、品質保証の高度化による「ブランド価値の向上」を基本戦略として進め、初年度となる2016年3月期におきましては、国内市場への取り組み強化、中国内販事業およびごぼう事業の拡充、新技術を活用した玉子製品や新規事業向け製品の開発・導入、営業粗利率の改善、製造原価・仕入原価の低減、経営口スコストの削減、販売・物流体制の再編と効率化、食品安全マネジメントシステムの高度化に注力してまいります。

以上に基づき、次期の売上高は、38,500百万円(当連結会計年度比3.3%増加)を見込んでおります。

## ■ 利益面の見通し

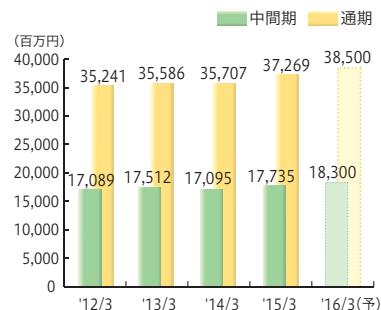
利益面においては、原材料価格の上昇や円安による仕入原価の増加に加え、事業拡大戦略投資を見込み、営業利益は300百万円(当連結会計年度比89.9%増加)、これに営業外損益を加えた経常利益は300百万円(同43.5%減少)、当期純利益は180百万円(同28.1%減少)をそれぞれ見込んでおります。

また、期末配当金につきましては、厳しい業績予想ではありますが、普通配当で1株当たり12円を堅持させていただきたく予定です。

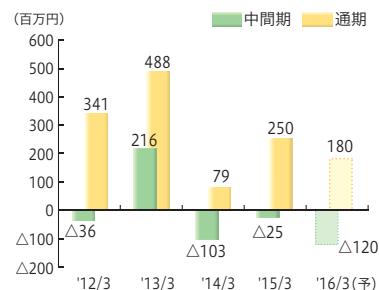


お客さまへ製商品をお届けする配送車

## ● 売上高(連結)



## ● 当期(四半期)純利益(連結)



## 株主優待品

毎年3月末現在の株主名簿に記載された100株以上保有いただいている株主のみなさまに、5月下旬に自社取扱品の詰め合わせ」をご送付いたします。

ご所有株式数	ご優待内容
100株以上 500株未満	1,000円相当の自社取扱品
500株以上 1,000株未満	2,000円相当の自社取扱品
1,000株以上	3,000円相当の自社取扱品

2015年の株主優待品は、みなさまからいただいたご意見をもとに「自社製品の詰め合わせ」をお送りさせていただきました。

ご贈呈品目は、100株以上500株未満保有いただいている株主の方へ「3色セットごぼう豆(きなごぼう豆、ミルクごぼう豆、チョコごぼう豆)」、500株以上保有いただいている株主の方へは「冷凍厚焼玉子(焼目入)」、「冷凍厚焼玉子(だし味)」、「豚角煮」、「たいやき」を、1,000株以上保有いただいている株主の方へは、500株以上保有いただいている方への贈呈品目に加え「冷凍ハンバーグ(デミグラスソース)」を送付させていただきました。



左記のほか、広報誌『膳』(年4回発行)や、毎年9月末現在の株主名簿に記載された100株以上保有株主のみなさまには、『あじかんオリジナルカレンダー』(年1回)をご送付させていただきます。



## “あじかん焙煎ごぼう茶、関連製品発売のお知らせ

### 『あじかん焙煎ごぼう茶すらり』

- 発 売 日……2015年4月1日
- 希望小売価格……2,856円/袋(税抜)
- 発 売 地 域……全国(通信販売)

#### 商品特徴

『あじかん焙煎ごぼう茶すらり』は、「あじかん焙煎ごぼう茶」に自然植物である「ゴールデンキャンドル」と「ケツメイシ」をブレンドした特別な健康茶です。

常習性がなく、より穏やかにスッキリをサポートいたします。2つの自然植物は、ごぼうと同様に焙煎を香ばしく、美味しくお召し上がりいただけます。



### 『つくば山崎農園産ごぼうおこわ』

- 発 売 日……2014年12月8日
- 希望小売価格……630円/箱(税抜)
- 発 売 地 域……全国(通信販売)

#### 商品特徴

つくば山崎農園産生ごぼう、の風味・食感をそのままに、相性抜群の“信州みそ”を使ってごぼうの旨みをより引き立て、野沢菜とニンジンで彩りを添えました。

お米は蒸したご飯を乾燥させたアルファ化米を使用し、ご飯の美味しさがそのまま一粒一粒に閉じ込められています。いつでも精米したての美味しさが短時間で味わえます。

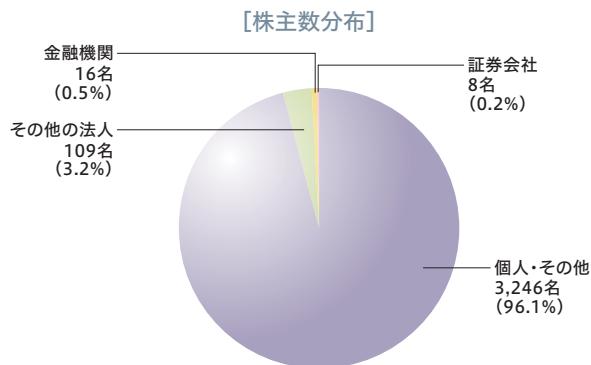


# 株式の概要

## ■株式の状況 (2015年3月31日現在)

発行可能株式総数	16,000,000株
発行済株式総数	7,700,000株
株主総数	3,379名
上場証券取引所	東証2部
証券コード	2907
単元株式数	100株

## ■株式分布状況 (2015年3月31日現在)

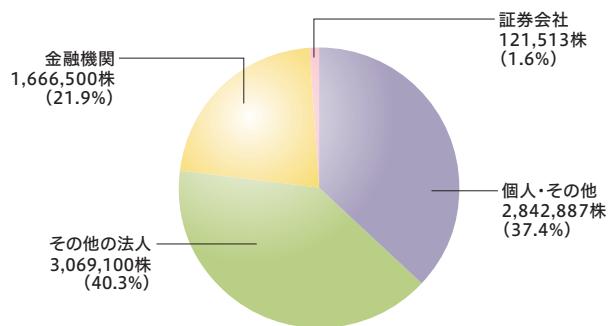


## ■大株主の状況 (2015年3月31日現在)

株主名	株式数(株)	持株比率(%)
株式会社 足利興産	1,934,700	25.4
あじかん三栄持株会	637,700	8.4
株式会社 広島銀行	363,000	4.8
あじかん株式持株会	348,800	4.6
株式会社 山口銀行	214,500	2.8
株式会社 三菱東京UFJ銀行	192,500	2.5
明治安田生命保険相互会社	158,000	2.1
西川ゴム工業株式会社	150,000	2.0
広島海苔株式会社	139,500	1.8
共栄火災海上保険	132,000	1.7

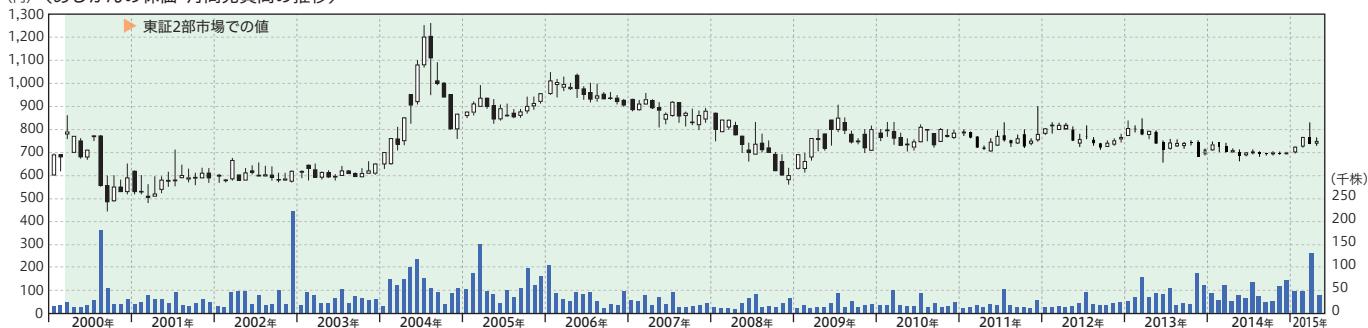
(注)持株比率は、自己株式を控除して算出しております。

## [株式数分布]



## ■株価の推移

(円) [あじかんの株価・月間売買高の推移]



# 会社概要

商号 …… 株式会社あじかん  
AHJIKAN CO.,LTD.

設立 …… 1965年(昭和40年)3月19日  
(創業 昭和37年)

本社 …… 広島市西区商工センター  
七丁目3番9号

資本金 …… 1,102百万円

従業員数 …… 730名(パートを除く)

主要な事業内容 …… 鶏卵加工製品・野菜加工  
製品・水産練製品・その他  
食品の製造、販売、および  
卸売、農産物の生産、販売  
を主な事業としており、  
取扱品は次のとおりであり  
ます。

**【製 品】** 玉子焼、味付かんぴょう、  
味付しいたけ、かに風味蒲  
鉾、中具、おぼろ、野菜煮物、  
ごぼう茶 など

**【商 品】** 海苔、食用油、生姜、揚げ、  
調味料、水産加工品、調理  
冷凍食品などの業務用食品、  
酒類

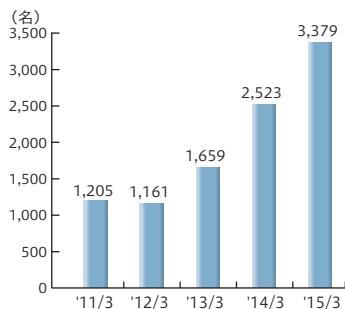
**【農産物】** ごぼう など

## ■役員 (2015年6月26日現在)

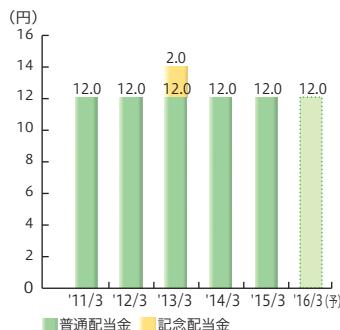
取締役会長 …… 足利 政 春  
代表取締役社長 …… 中谷 登  
取締役副社長 …… 足利 恵 一  
専務取締役 …… 白川 秀 喜  
常務取締役 …… 松岡 宣 明  
常務取締役 …… 豊田 太  
取締役 …… 江角 知 厚  
取締役 …… 樋口 研 治  
取締役 …… 玉井 浩  
取締役 …… 足利 直 純  
取締役 …… 川平 伴 勅  
常勤監査役 …… 原本 学  
監査役 …… 山本 英 雄  
監査役 …… 稲葉 琢 也

注) 1. 取締役 川平伴勅氏は社外取締役です。  
2. 監査役 山本英雄氏および稲葉琢也氏は、社外監査役です。

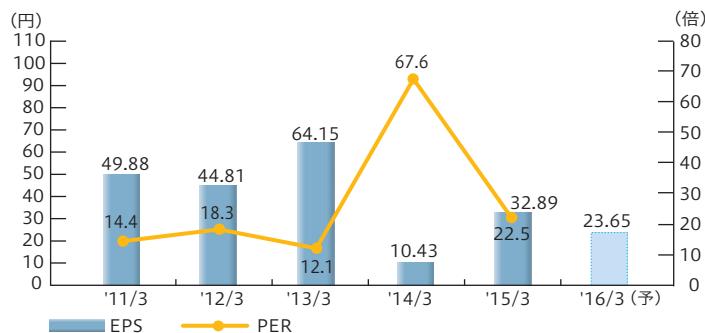
## ■株主数の推移



## ■配当金の推移



## ■1株利益(EPS)と株価収益率(PER)の推移



## ■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日(当期中間配当は未実施)

株主名簿管理人  
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
電話 0120-094-777(通話料無料)

上場証券取引所 東証2部

公告の方法 電子公告  
(公告掲載URL) <http://www.ahjikan.co.jp>  
※やむを得ない事由により、電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法で行います。

### 【ご注意】

- 株主さまの住所変更など各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社にお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でも、お取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店で、お支払いいたします。

## あじかんグループ企業の紹介

あじかんグループは、鶏卵加工製品、野菜加工製品、水産練製品、その他食品の製造、販売、および卸売、農産物の生産、販売を主な事業としております。

### ▶ 株式会社あじかんアグリファーム(子会社)

所在地: 広島市西区商工センター七丁目3番9号  
資本金: 30,000千円(当社100%出資)

主な事業内容 農産物の生産、販売、および加工業務など



### ▶ 山東安吉丸食品有限公司(子会社)

所在地: 中華人民共和国山東省青州市瓏山路2700号  
資本金: 5,354千ドル(当社100%出資)

主な事業内容 農産物の生産および販売

### ▶ 味堪香港有限公司(子会社)

所在地: 香港灣仔港灣道中30号新鴻基中心  
3階301室

資本金: 7,700千香港ドル(当社100%出資)

主な事業内容 酒類・食品の輸出入、卸売

### ▶ 愛康食品(青島)有限公司(持分法適用関連会社)

所在地: 中華人民共和国山東省萊西市深路東  
資本金: 5,036千ドル(当社50%出資)

主な事業内容 寿司用食材や惣菜類などの製造・販売

## IRへの取り組み



IR・株式情報ページ ▶

当社は、IR(投資家向け広報)の小冊子を発行しており、企業広報誌『膳』と併せてお配りしています。企業広報誌『膳』、IR小冊子、決算情報はホームページでご紹介しておりますので、是非、ご覧ください。

あじかん  
ホームページ



>>> <http://www.ahjikan.co.jp/>



### ▶ 味堪(広州)餐飲管理有限公司(孫会社)

所在地: 中華人民共和国広東省広州市越秀区  
建設六馬路青萊崗街

資本金: 4,500千人民币(味堪香港有限公司100%出資)

主な事業内容 酒類・食品の輸入、卸売



UD FONT

見やすいユニバーサルフォントを  
採用しています。